

“ふるさとちば”のための政策推進を

# 山本よしかずアクトイブレポート

## 誠心誠意



やまもとよしかず  
**山本義一**

〒289-1116 千葉県八街市中央20-11  
TEL.043-440-7070  
FAX.043-440-7030  
HP:http://www.yoshikazu-52.jp/

昨年12月定例県議会の案件全てが承認・可決され、22日に閉会されました。その概略と、平成29年を振り返って、八街バイパスの一部開通をはじめ、幾つかの行事などを中心に特集しました。

平成29年12月定例県議会では、補正予算案4件、条例案7件、工事請負契約案件3件、福島第一原子力発電所事故に伴う損害賠償に係る案件1件、当せん金付証券の発売総額を定める案件1件を審議した他報告1件でした。

なお、補正予算案の特徴としては、10月の台風21号及び22号による被害に対応する経費の計上とともに、年度内に何らかの理由で終了しない見込みの事業に係る繰越明許費、県発注工事量の年度内での平準化を図るための債務負担行為の設定などの審議を行いました。

次に当面する諸問題等の報告においては、10月に愛媛県で開催された第17回全国障害者スポーツ大会で、本県選手団は、金メダルの獲得数が全国第二位の58個と輝かしい成績を収めました。県では、2020年東京パラリンピックに向けて、一般社団法人千葉県障がい者スポーツ協会に「障がい者アスリート部会」を設置して支援体制の強化を図り、有望選手の把握やトップ選手の強化を行うとともに、競技団体の育成や練習環境の整備に取り組むことを、続いて、次期「千葉県農林水産業振興計画」では、平成30年度から4年間を計画期間とする「千葉県農林水産業振興計画」を、年内を目途に策定し、農林水産王国・千葉の復活を目指すことを、最後に、台湾鄭文燦桃園市長のお計らいで、台湾政府の要人と面談ができ、本県の農林水産物が安全であることを説明するとともに、一日も早い輸入規制解除をお願いしたところ、鄭文燦市長との合同記者会見で、千葉県をはじめ被災県の農林水産物の安全性に問題がなく、科学的根拠をもって判断してもらいたいと、地元メディアを通じて台湾の皆様へ直接伝えることができ、また、台湾日本関係協会邱義仁会長より、関係機関に積極的に働きかけていくとの大変前向きな話があったと報告がありました。

**志定まれば、気盛んなり。**  
「ひとたび決心がつけば、意気が高まり、どのようなことも立ち向かって実行できる。」(吉田松陰 名言より)

### 八街バイパス一部暫定2車線開通

ふるさと八街の街づくりの情熱を傾け、2月定例県議会の予算委員会では、八街市街地の混雑解消が期待されている八街バイパス整備の進捗状況を質問したうえで、全線開通に向けた努力を重ねて要望したところですが、バイパスの一部が平成23年5月に1.5キロメートルの開通に続き、五区交差点付近から国道409号までの約1.2キロメートルが昨年3月22日に一部暫定2車線で開通しました。残る、500メートルの開通を目指すとともに、道路網の整備に向けて努力してまいります。

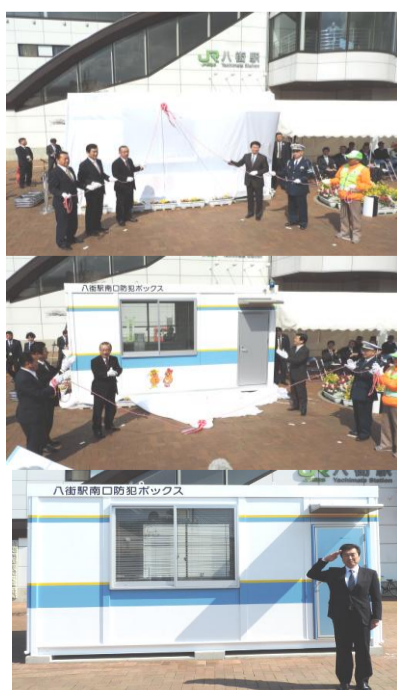


### 所在不明県税滞納者追跡調査

千葉県では、徴収対策を強化し滞納額縮減への努力を続けていますが、住民票の手続きをとらずに所在が不明となっている滞納者の所在をどのように把握しているのか質問すると、県担当者は、滞納者の親族など関係者への聞き取りや、戸籍の附票などの公簿の調査により、その所在の把握に努めていると、なお、所在不明者の滞納額を解消するためには、住民票上の住所をもとに調査し、預貯金、生命保険、不動産等の財産などの差押処分を他の滞納者への対応と同様に、適切に実施していると回答がありました。

### 八街駅南口防犯ボックス開所

八街駅南口に設置された防犯ボックスの開所式が4月13日(木)午後2時より、森田健作千葉県知事にご臨席いただき、盛大に執り行われました。八街市の防犯ボックスの特徴としては、交番と近接していることに加えて、警察官OBと市職員OBを配置することで、警察や市の様々な部署とが緊密に連携できるなど、地域特性に合わせた工夫がされています。なお、設置効果としては、他市と同様に空き巣などの窃盗抑止に効果が上がっていると聞いています。今後も、八街市全体の安心安全に向けて八街警察署の実現に向けて重ねて要望を続けてまいります。



### 不登校児童生徒への初期対応の重要性

不登校の兆候を見せたとき、あるいは不登校となった初期の段階での対応がたいへん重要と考える、不登校の初期段階の児童生徒に対して、学校はどのように対応すべきと考えているのかとの質問に、県教育長より、不登校の兆しに気づいた場合は、校長のリーダーシップの下、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなども連携を図りながら、組織的に支援する必要があると考えている。なお、教員の対応力を高めるために研修の充実にも努めるとともに、今年度新たに「不登校対策指導資料集」を作成し、全公立学校に配布することを計画していることが示されました。各地域でも互いに気づいたら声掛けをしていきましょう。

また、不登校状態が続く児童生徒に県はどのような対策を取っているのかとの質問に、県教育委員会では、スクールカウンセラーの配置等による相談体制の充実に取り組みるとともに、県内の「地区不登校等対策拠点校」に訪問相談担当教員とスクールソーシャルワーカーを配置し、家庭や学校への訪問等を通じて、不登校が長期化している児童生徒の登校に向けた支援を行い、また、県内125の不登校対策推進校において、集団生活への適応等のための相談・支援を行う「校内不登校児童生徒支援教室」の開設によって、除々に学校生活に適応できるよう支援している取り組み状況について説明がありました。現状を近隣県と比較すると、スクールソーシャルワーカーの人数は格段に少ないことから、人数や不登校等対策拠点校の数を増やすよう要望しました。



6月定例千葉県議会予算委員会にて質疑を行う山本義一県議

**「ちばGAP」は農業者が取り組みやすい制度になるよう要望**

**山本議員**

東京オリンピックピック・パラリンピック選手村で使われる農産物は、GAP制度の認証を受けて生産されていることが必要とされている。GAPとは、農業生産活動を行う上で必要な関係法令などの内容に即して定められている点検項目に沿って農業生産活動の各工程の正確な実施記録、点検及び評価を行う制度です。しかしながら、グローバルGAPなどの国際水準GAP認証を受けている農場は少ない

ことから、大会組織委員会は各都道府県に国のガイドラインに準拠したGAPの確認体制の導入を求め、千葉県も「ちばGAP」の導入準備を進めていると聞くが、県は「ちばGAP」制度を、どのように周知するのか。

**安全農業推進課長**

「ちばGAP」制度の周知については、本年度試行するテスト産地での取り組みを通じて農業者へのPRを図るとともに、ホームページの活用や、市町村、農業協同組合等と連携し、啓発資料を作成・配布及び説明会の開催などにより、広く県内の農業者への周知を進め、「ちばGAP」制度の普及拡大に努めてまいります。

**山本議員**

「ちばGAP」テスト産地の選定状況はどうか。

**安全農業推進課長**

テスト産地については、6月8日から16日まで間で募集を行ったところ、県内各地から20件の応募がありました。

応募者の中から、東京オリンピックピック・パラリンピックに食材提供の意欲がある「ちばみどり農協エコ産物部会」など、野菜2地区、果樹2地区、米3地区及び千葉県立農業大学校の、計8地区を選定したところです。

**山本議員**

県は、テスト産地において、どのように試行を進めていくのか。

**農林水産部長**

テスト産地において、農業者に実際に各点検項目について自己評価していただいた上で、普及指導員等により個別改善指導を行い、全点検項目の適合状況を確認します。

試行していく中で、農業者へどのように説明すれば理解が進むのか検討や、点検項目の精査などを行い、30年2月から、「ちばGAP」制度が円滑に始動できるよう取り組んでまいります。

**山本議員**

テスト産地において、「ちばGAP」の試行をしっかりと行い、また、国際水準のGAPの足掛かりともなるよう、制度を構築するよう要望した。

「GAP・ギャップ」とは、「直訳すると、良い農業のやり方」になります。

農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能を確保するための生産工程管理の取り組みのことで、団体でも応募はOKです。

**9月定例県議会の一般質問傍聴**

9月定例県議会の一般質問に私（山本義一）が登壇する日程に合わせて、自由民主党八街市支部が主催する県議会傍聴が行われました。会場は八街市議会議員、地元議員、支援者合わせて78名に本会議場にお越しいただきました。



**富里特別支援学校で過密解消**

千葉県立特別支援学校整備計画について、平成29年4月に栄特別支援学校の開校により、富里特別支援学校の過密は解消されたかとの質問に、教育長より、新設校の開校に伴い、学区の区割りを変更し、成田市と栄町が新設校に移ったこと、栄特別支援学校は、在校生104名で開校することができました。これによって、富里特別支援学校の児童生徒数が81名減ったことから、在校生が170名となり、今まで普通教室に転用していた音楽室・工芸室を元の目的教室に戻すなど、過密状況が大幅に緩和されるとともに、教育環境の改善が図られました。今後も推移を注視しながら、教育環境の充実に努めるとありました。

以前から熱望していた過密が解消されたことに感謝するとともに、更なる充実に努めるよう要望した。

**保育士不足に伴う処遇改善への県の取組みは**

県市町村における「千葉県保育士処遇改善事業」の取り組み状況についての質問に、健康福祉部長より、県内の民間保育所を有する41市町

のすべてが、29年度からの事業実施の意向を示し、年内に補正予算を上程する予定で、本事業の実施により、従前から市町村が独自に実施していた処遇改善事業と合わせた給与への上乗せ額は、27市町が2万円、9市が2万円を超え4万円以下、5市が4万円を超える見込みとなっている。県としては、市町村と連携し、29年10月からの円滑な事業実施に努めると回答がありました。

**ヘルプカード持参者に愛の手を**

千葉県では、障害などにより支援や配慮を必要としていることが外見からは分からない方が、周囲の人に支援等を必要としていることを知らせるためのヘルプカード及び「普及・啓発チラシ」を作成し広く多くの方々に理解していただく活動を続けています。

ヘルプカードとは、義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、妊娠初期の方など、外見からは支援や配慮を必要としていることが分からない方が携帯することにより、災害時や日常生活の中で困ったときに、周囲の方に自身の障害等の支援や配慮を求めるカードです。

このカードには、援助が必要なことを知らせるためのヘルプマークを表示しております。また、住所や緊急連絡先、配慮や手助けをして欲しいこと等を個人情報保護に留意して記入し、普段から携帯しています。ヘルプカードを示された際には、愛の手を差し延べてあげてください。



ご協力をお願いします。

今年の秋以降から本格販売が開始される、新品種の落花生の愛称を昨年暮れに募集したところ、6千3百件を超える応募をいただきました。今年の7月ごろには愛称が公表され、秋以降には、甘みが強く美味しい落花生が

